

駿河湾の深海魚 (8)
ソコイワシ (その1)
 久保田 正・佐藤 武

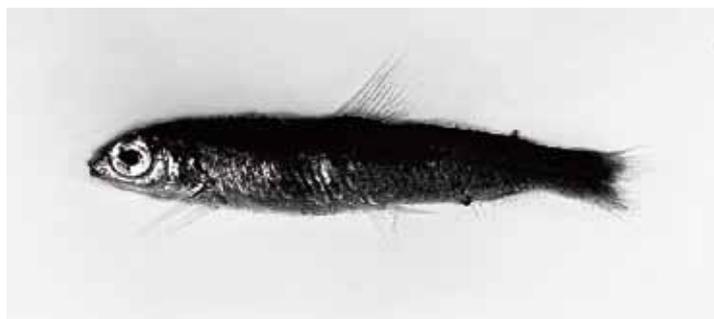


図 1. ソコイワシ
 BL: 90.1mm
 2004年3月2日 三保海岸打ち上げ

ソコイワシ *Lipolagus ochotensis* は、ニギス目、ニギス亜目、ソコイワシ科、ソコイワシ属に含まれる中・深層性魚類の一種です。その分布は、ベーリング海やオホーツク海の北太平洋北部海域であり、本州太平洋側では駿河湾以北から知られています。図1は、駿河湾の三保海岸に打ち上げられた個体です。

本種は、1938 (昭和13)年にロシアの魚類学者シュミット (P. J. Schmidt) により、オホーツク海 (樺太東海岸沖) からトロール船で漁獲された標本をもとに発表されました。体長約160mmまで成長します。生息水深は、80~6,000mです。一般的に商業価値は認められていないので南日本ではあまり馴染みのない魚です。しかし北方外洋域では大型魚の餌生物として重要な生態的地位を占めています。本種の和名のソコは底を意味していて深海に生息することで名付けられたと考えられます。また語尾がイワシとついていますが、マイワシ類やハダカイワシ類とは別の仲間です。これら3魚類群の形態的な共通点は、いずれも鱗が剥がれやすいことです。

駿河湾内のサクラエビ漁業は、毎年春漁 (3~6月) と秋漁 (10~12月) の2回行われています。サクラエビと共に多くの魚類が混獲されますが、1981~1983年の春漁には本種の体長50~120mm位の大きさの多くの個体が採れました。図2は、1981年春季に得た本種の体長組成を示しています。そのモードは100mm付近にあります。1982年の組成は前

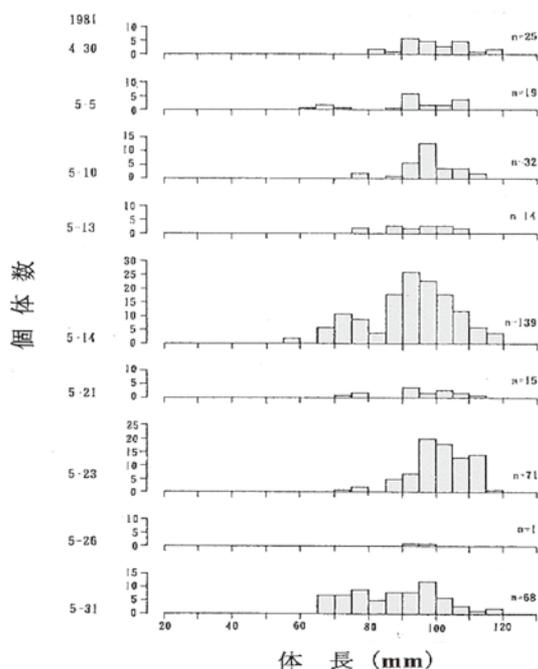


図 2. ソコイワシの採集日別体長組成 (384 個体)
 1981年4~5月 サクラエビ網混獲

年と良く似ていますが、1983年のそれは体長100mm付近の個体は少なく、体長50mm以下の個体が多く採れて年変化がみられました。

また、1980~1992年に駿河湾の湾央域で動物プランクトンを採集する目的で大型プランクトンネット (口径1.6m; 網目幅2mm) を用いて水深3~1,000m間の4~5層を水平に同時に60分間曳網したところ、各種の動物プランクトンとともに本種が99個体が採集されました。この採集は14年間にわたって毎年行われましたが、主に11月から翌年の3月までの冬季を中心に年により1~23個体の範囲で採集されました。それらの多くは体長50mm以下の個体でしたが、年によってさらに小さい体長25mm以下の個体が含まれていたことにより、駿河湾内で産卵していることが考えられました。

また、駿河湾の東側に位置する相模湾でも本種の小型個体が11~4月の冬季を中心に採集され、当湾と出現時期は一致しています。本種の生態的な研究は十分ではないので、その解明は今後に期待します。